

骨密度検査(DEXA 法)ってなあに？

骨密度検査(DEXA 法)は、放射線を使用し骨の密度を測定する検査です。

骨密度は、20 歳ごろにピークに達し、40 代半ばまではほぼ一定を維持します。しかし、その後加齢に伴い少しずつ低下していき、骨がもろくなっていきます。また、骨密度の維持には、女性ホルモンの一種である「エストロゲン」が関与します。閉経により、「エストロゲン」の分泌が減少することで、骨密度を維持する働きが弱まります。そのことから、男性よりも女性のほうが骨密度は低下しやすいです。ほかにも、加齢や閉経以外にも喫煙、運動不足、過度なダイエットなど生活習慣の影響で骨密度が低下することがあります。また、一度、低下した骨密度を回復させることは非常に困難です。

骨密度が低下し、骨折しやすい状態になってしまうことを「骨粗しょう症」といわれています。



骨密度検査(DEXA 法)では、撮影台の上に仰向けで寝ていただき検査を実施します。腰椎といわれる背骨と足の付け根にある大腿骨頭といわれる骨で検査を行います。



妊娠中、妊娠の可能性のある方、持続血糖測定器(CGM)をつけられている方、バリウム検査を受けてから1週間以内の方、大腿骨頭が両足とも人工関節に置換されている方は受診できません。ご了承ください。